

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

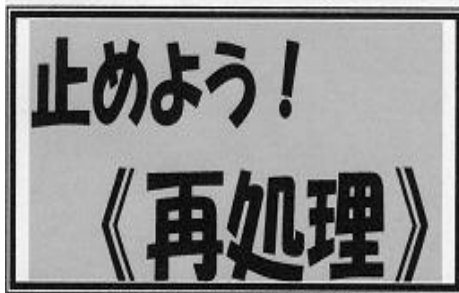
郵便振替 02240-5-102650

《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2010(平成22)年

7月 3日

第86号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

#戸水からストロンチウム90検出!

六ヶ所村尾駁の井戸、全国の最高値



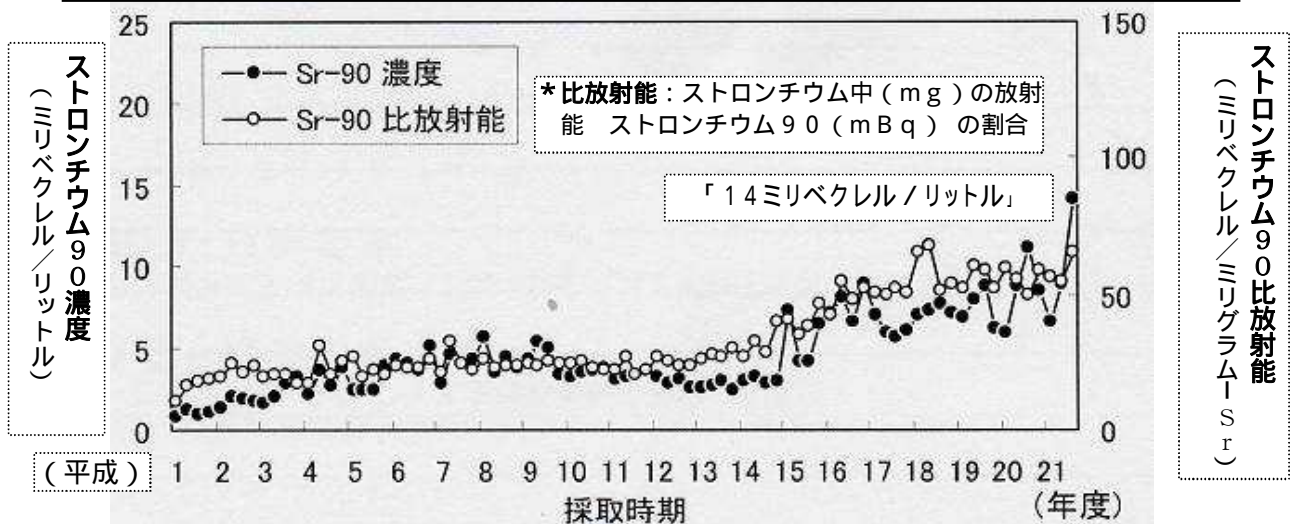
再処理工場の排気筒(大煙突)

アクティブ試験開始の2006(平成18)年3月末以来、クリプトン85やトリチウムなどの放射能を放出し続け、フォールアウト・雨などで地上を汚していると推定される。

六ヶ所再処理工場に近接する尾駁(おぶち)地区の井戸でストロンチウム90の値が全国平均値の七倍以上という驚くべきデータが、青森県原子力施設環境放射線調査報告書(平成二十一年度第三四半期)に掲載されています。文部科学省の環境放射線データベースと比較すると全国でも突出した異常に高い数値です。

再処理工場以外 排出源考えられず

《井戸水地点(尾駁)》の、ストロンチウム90の濃度と比放射能の推移
(青森県ホームページ「同報告書(211頁)」から)



ストロンチウム90測定値	
資料名	井戸水
地点名	尾駁2
核種	⁹⁰ Sr
測定値	14
平常の変動幅	ND~11
定量下限値	0.4
単位	mBq/L

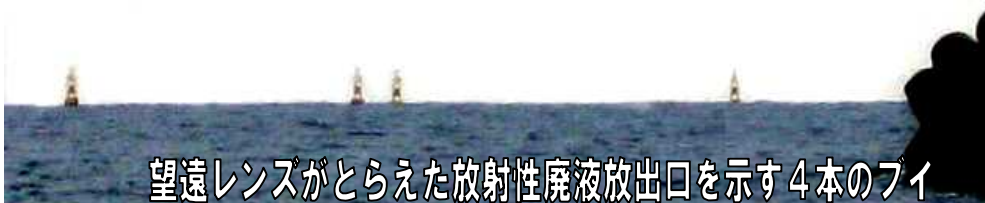
日本原燃の調査結果
青森県のホームページの「青森県原子力施設環境放射線調査報告書」には付録資料1として「井戸水のストロンチウム90の調査報告」があり、日本原燃の調査(四月一六日付け文書)として発表されています。問題の井戸の所在地は「尾駁」となっているが、地図などによる位置の説明はありません。再処理工場と近接する六ヶ所村尾駁地区にある井戸ということになります。その測定値は左のような表によって示され、さらに上のような折れ線グラフによって平成元年以来の推移が示されています。化学試験開始の翌年の平成一五年以降黒点のストロンチウム90の濃度が上がってきています。ウラン試験、アクティブ試験と上昇傾向にあり、さら

に昨秋、急上昇しました。全国四〇〇地点の

最高濃度の約二倍

この数値を、文部科学省が収録している「環境放射線データベース」で比較してみました。とりあえず平成元年～四年のストロンチウム90について全国各地の四〇〇個の数値と比較してみました。その平均値は2.08μベクレル/リットルで、全国の最大値は福井県猪ヶ池の6.9μベクレル/リットルでした。六ヶ所村尾駁の14μベクレル/リットルは平均値の約七倍、最大値・猪ヶ池の約二倍です。環境レベルの変動は？日本原燃は微量であり、環境レベルの変動として済まそうとしていますが、本来、自然にはないストロンチウム90が検出され増大しているのであり、人体に入り骨に蓄積し造血細胞を破壊し白血病の引き金になることが懸念されます。井戸水にまで放射能が入り込み始めたことは深刻です。詳しくは「岩手の会」ホームページを参照してください。(永田文夫)

六ヶ所沖合3キロの廃液放出口



望遠レンズがとらえた放射性廃液放出口を示す4本のブイ

ストロンチウム90

Sr90。人工的に作られたウランの核生成物。半減期28.8年でベータ線を出す。カルシウムと似た性質で体内に入ると、骨に蓄積し放射線を出し続ける。骨ガンや造血機能障害をもたらすとされ大変危険である。

川田龍平参議院議員
提出
『質問主意書』・
『政府答弁書』の分析。
その2

放射能放出を事前広報せよ

海洋は公共の場

放射性廃液の
放出は許されない

【川田議員質問主意書】
民間事業である日本原燃は、放射性廃液を公共の場である海洋へ放出しながら放出口時を事前に公表しない。政府の見解を聞きたい。

【政府答弁書】
事前公表の要否については、日本原燃が判断すべきと考えている。海洋

六ヶ所再処理工場の放射性汚染が危惧されます。川田龍平参議院議員は二回にわたり「質問主意書」を提出し、「政府答弁書」受領しました。一回目は昨年一月、再質問は本年四月でした。この問題は全ての国民の安全の問題です。政府答弁は余りに不十分、安全軽視の実態が浮かび上がりました。主な内容を連載します。

放出口近隣の海水の放射性物質の濃度は日本原燃から四半期ごとに報告を受けている。

【川田議員再質問書】

すでに尾駁港では廃液の海洋放出に連動して海中トリチウムが増減する傾向が見られる。事後発表では、日常的に海洋を利用する漁業者、サーファー、釣り人などが不要な被ばくを受ける可能性がある。国はあらかじめ、公表するよう原燃を指導するべきである。
【政府再答弁書】

事前公表の要否については、日本原燃が判断すべきと考えている。

《岩手の会・見解》

被害が出てからでは遅い。水俣病への国の責任に学べ

事前公表の要否については、「日本原燃が判断すべきと考えている」と説明なしに答えています。海洋の放射能汚染について取り締まる責任は国にあります。水俣病問題で国の責任を認めた日本政府は、六ヶ所再処理工場のもたらす海洋汚染に対しても、もっと真剣に取り組み、不要な国民の被ばくを避けるような政策を実行するべきです。被害が出てからでは遅いのです。

ガラス溶融炉 剥落レンガ回収

日本原燃はガラス溶融炉の底部に沈んでいた「剥落レンガ片」を、六月一七日一六時五五分に一八回目の作業で回収したと発表しました。回収した「レンガ片」のカラー写真が日本原燃ホームページに掲載されています。今後、ガラスを流下させ炉底部の修復作業に入るとしていますが、レンガ破片や付着した白金族元素の除去、パイプの貫通など、さらに困難な作業が続いています。無理な作業が、周辺レンガへ悪影響を与え、さらに作業者の被ばくの増大、炉の耐震性への影響などが危惧されます。

天恵の海/短信

クリアランス制度国会通過

放射線障害防止法が改悪され、研究・医療などの放射性廃棄物のうち、放射線が一定値以下のものを一般ごみ扱いとする「クリアランス制度」が国会を通過。滝沢村RMCの8千本のドラム缶のゆくえはどうかなど、村議会で質問あり。市民学習会継続中。『三陸の海を放射能から守ろう展』岩手県高校教育会館ロビー(盛岡市)で開催予定

7月20日(火)～24日(土)に六ヶ所再処理工場周辺から始まっている放射能汚染についてパネル展を開催します。準備中。